千葉大学総合情報処理センターニュース

平成９年６・７月発行
千葉大学総合情報処理センター

千葉大学ホームページ

— http://www.chiba-u.ac.jp/ —

総務部国際交流課国際協力係　山崎貴子

誰かが言いだしました。大学の公式ホームページを作ろう。それがことの発端でした。おかげで某大学事務局は、そっれはもう大変。「公式ホームページ」その言葉を聞いただけで、ある者は物陰に隠れ、ある者は悪夢にうなされ、ある者はひきつけを起こしました。私なんか脳みそが心筋梗塞になってしまったりしたものです。

しかし。心筋梗塞をほぼ克服した今、私はこれだけは自信を持って言えます。ホームページは、痛くありません。所詮「HTML」という形式で、文書を作るだけのことです。銀行強盗しろってわけじゃありません。

「だから、その H? HTML 形式っていうのがわからないんだよ。それは一体、何なんだよ？」

そんなの私も知りません。ホームページ作成ソフトが勝手に HTML にしてくれます。仕組みがわからなくても電話をかけられるのと同じですね。

と、呑気なことを言っている私も、最初はもう大変でございました。ホームページを見たことはあっても、ホームページを作ったことはない。はい、それが普通です。普通の私がついうっかり千葉大学ホームページ作成担当者の一人になってしまったことから、苦難の日々が始まりました。

そう、例えばですね、あなたがまるっきりの下戸だとします。もう、お酒なんて一滴も飲んだことがないような。ところが何の因果か、あなたは「仕事上」日本酒を飲めるようにならねばならなくなりました。幸いあなたの職場には、親切で飲兵衛な先生やら先輩やらが揃っていて、あなたのお勉強のためにと全国の地酒が揃っているお店に連れていってくれたとします。

「久保田にする？八海山にする？ここのお店はたいていのものがそろうから、今日は好きなもの頼んでいいよ。」

クボタって何？ハッカイサン？それは熱燗とどう違うのかしら。

「よ、よくわからないんですが、どういう違いがあるんですか？」

「ふっふっふ、ここの数字を見てごらん。日本酒度が高いほど、辛口になるんだよ。」

うーん、辛口。何でお酒が辛いのかしら。ビールだって苦いのに。

「甘口がいいかな？辛口がいいかな？」

「そんなこと、このこに言ってもわからないって。ともかく飲んでみることだよ。」

「純米吟醸が、やっぱり飲みやすいと思うな。」

「最初にくだらない酒を飲むと日本酒嫌いになっちゃうからな。」

「思いきって、この酒から飲ませちゃうか？」

「いやあ、ここも蔵本が代替わりしてから、大したことないだろ。どれも同じだよ。」

「ともかく試してみることだね。さ、何頼む？」

ななななな何言ってんの、この人達さっきから？

「せ、先生にお任せします。」

「うーん、有名な銘柄っていうのはあるけどね。でも結局好みの問題だから。どういうタイプの酒が好きか言ってくれれば、選んであげるよ。」

好みの問題 ...絶望です。ええい、何でもいいから飲んでやる。でも、やっぱり日本酒なんてどこがいいのかわからない。わからない上に気持ち悪くなってきた。うわっ、気付いたら朝。

というのが、千葉大学ホームページの担当の一人にいつの間にかなっていた私の状況であったといえば、おわかりいただけるでしょうか。...すみません。もうちょっと具体的に話しましょう。

公式ホームページを作る、と初めて聞いたのは今年の１月だったでしょうか。そして英文版は国際交流委員会（つまり事務は国際交流課が担当）

に協力を頼む、と聞いたのはもう少し後だったと思います。その作業の前途多難さに気付いた時は後の祭り。めまいがしてきました。課の中にその手のことに詳しい人々がいたのは幸いでありました。もっと幸いなことは、総合情報処理センターの先生がフォローしてくださったことです。

が、とにかく私には土台がないのです。親切な講師陣をお迎えして、日々、謎の言葉によるレクチャーが続きます。

＊＊＊（某月某日）＊＊＊

「リンクをはる方法にも相対パスと絶対パスがあってね、相対の方が後々楽だと思うよ。」

「相対パスと絶対パスってどう違うんですか？」

「例えば家の住所で言えばね、〇〇町の何番地っていうのが絶対パス、山崎さんの家の隣りっていうのが、相対パスなわけ。」

「んー、相対とゆうことは、基準になるものが動くと相対パスも動いちゃうんですか？」

「いや、動かないの。相対はあくまで相対的なものなわけ、絶対は動かせない絶対のものなの。」

「あーのーでーすーねー、いくら私でも相対と絶対くらいはわかりますよ、“パス”なんてついちゃうから、わかんないんですってば。」

「やってるうちにわかる、わかる。」

＊＊＊（某月某日）＊＊＊

「あとは、FTPで送るだけです。」

「エフティーピーって何ですか？」

「ファイルトランスファープロトコルのことですね、ファイルをサーバーに転送するわけです。」

「ふーん、サーバーって何ですか？」

「サーバーっていうのはねえ...（ああでこうで）...そういうものなのです。」

「今わからない言葉が４つくらいありました。」

「あー、とにかくそこに送ると、外から見られるようになるんですよ。」

「とってもよくわかりました。」

「ま、やってみてください。」

...先生、お手本を示す。

「はい、やってみましょう。」

...自分でやってみる...んー？

「えー、そう、です...ね。もう少し、簡単なソフトで送れるようにしましょうか。」

＊＊＊（某月某日）＊＊＊

「先生、ホームページに関する問合わせ用に、それらしいメールアドレスが欲しいのですが。」

「２つ方法があります。新たにアカウントを作りそこで全て処理するか、単に今事務で使っているところに自動転送するか。」

「は、はい？」

「つまり、好みの問題です。今の技術なら、やりたいことは大抵できますから、どういう形にしたいのか実際にメールを処理するそちらで指定してください。対応しますよ。」

好みの問題...絶望です。

今さらながらに、講師の皆様の宣教師的忍耐力には感動の念を禁じ得ません。総合情報処理センターの土屋センター長、戸田先生、小澤さん、ついでにうちの課の猪狩課長、豊田さん、ご指導本当にありがとうございます（あえて現在形）。

もう一度日本酒で例えれば、いまだに私は日本酒の味はさっぱりわかりません。そう、ホームページの作成・運営は相変わらずよくわからないのです。が、それでもお猪口一杯くらいなら、お付き合いできるようになったような気がします。うんちくはわからないけれど、飲むとちょっと楽しいからまあいいか、というのがホームページってものに対する今の私の心境です。いつか一升瓶を抱え込んで飲めるようになりたいですね。

ではここで、文部省からの国立大学ホームページへのリンク一覧をご覧ください（http://www.monbu.go.jp/jmlink.html）。千葉大学も公式ページデビューしまして、ここからリンクされるようになりました。６月３０日現在で、国立大学・短期大学等１００校中、公式ページをもつのは７８校です。文部省のサイトからリンクされていないものも含めれば、もっともっと多くの大学がホームページを持っていることでしょう。つまり、それだけ「あって当たり前」の存在になったわけですね。

さてさて、というわけで皆様、千葉大学ホームページをより充実していくためには、皆様のご協力が必要です。こちらのURL http://www.chiba-u.ac.jp/をご覧になって、ご意見等お聞かせください。また、千葉大学ホームページに掲載したい学内のニュースやイベント（国際シンポジウム等）がございましたら、お知らせください。全体を総括している総務課のe-mailアドレスはBAF2012@x400.jm.chiba-u.ac.jp、英文版をとりまとめている国際交流課のアドレスはBC2047@x400.jm.chiba-u.ac.jpです。今後ともどうぞよろしく。

情報処理教育の現状と将来について

工学部工業意匠学科 3 年生　木下孝二

センターニュース読者のみなさん、こんにちは。1997 年度より、一般情報処理システム学生相談員として活動している者です。これまで 2 年間大学のコンピュータ（主に一般情報処理システム）を利用し、また相談員としての少々の経験から、思うことあって相談員のメーリングリストに投稿した私見的意見をこちらに載せていただけることになりました。つたない文章ですがおつきあいのほどを。

まず、現在の一般情報処理システム利用者としての不満点を列挙します。

不十分なユーザー環境　第一に、ハードウェア環境の問題点を挙げます。一般学生に対しては CPU 使用時間制限がかかっていますが、各種の処理が高度化した今となっては、現在の制限では文書作成にも事欠く能力です。mule エディタで約 20 分、mosaic では 10 ～ 20 のリンクを辿っている内にシャットダウンされてしまいます。この短い CPU 使用制限によって、使えない体験版ソフトやダウンの多いパソコン OS などよりも劣る端末環境になってしまっています。

GUI の未整備　UNIX コマンドラインの「とっつきにくさ」も、完全なコンピュータ初心者を前提とした普遍教育のシステムにとっては大きなハンディでしょう。また、わからなくなった点について調べることのできるヘルプシステムの検索性の不備を、紙媒体の熟読で補助とするやりかたも疑問です。このようなユーザインタフェースというデザイン視点の欠如により、一般情報処理システム（以下 students）の装備しているソフトウェアに一体どんなものがあり、どうやって使うことができるのかという情報提供が不十分なものになっています。例えば絵を描くとして自分の目的に最適なソフトウェアはどれか。必要になった新しいソフトウェアを導入したいとき、どうしたらよいのか。自習時間では相談員という人海戦術に頼りきっています。

演習室のレイアウト　広義のハードウェアとして演習室のレイアウトにも問題を感じます。狭い部屋に大量の端末の設置。各種の制約のためだと思いますが、黒板にすべての端末が正対する様式では、通行と静座、会話といった基本的な人間の行動に即した空間のデザイン感覚が欠けています。

講師の質的不足　最も問題としたいのが、専任講師の不在です。教官は各学部から出張のような授業担当をしています。ここの授業は専門科目ではなく、普遍教育の一つとして必修となっているにもかかわらず、研修の不徹底により、コンピュータ（利用の）専攻でもない研究者が、自分の専門でもないコンピュータリテラシを、不十分な教授技術のまま授業を持たされているというように感じられました。いきおい、「こんなこともわからないのか」といった態度で接し、教官、学生共に面白くない時間を過ごすことになりかねません。

カリキュラムの考慮不足　カリキュラムも疑問点の多いものです。わかりにくい機械の操作の説明と習熟に多くの時間を割かれ、応用的利用に関しても、確たる目的も示されないままに数式処理やプログラムのさわりを履修することに意義があるのでしょうか。僕が教わったアプリケーションは mule とメール送信、Maple です。Maple はあれ以来一度も利用していませんし、当時の一年生の中であの後何度の利用があったのでしょうか。

テキストのわかりにくさ　テキストも不十分だと感じられます。授業の流れを意識して内容を述べてはいても、その後の利用に役立ちにくいです。また、歴史的観点からの記述が少なく、students システム、コマンドの理解、活用に十分効果をあげていません。さらに技術情報の過多や、社会的問題、倫理問題が冒頭に述べられているのみで、学習に従って、利用度の進みに併せて理解を深めにくい点など、構成とレイアウト、図版等の表示に問題が散見されます。一つ一つの項目、説明が的確であっても、全体として読みやすいテキストとは言えないと思います。

.....

では、今後どのような方策を講じる必要があるのでしょうか。まず、students が機械の操作講習でなく、他の普遍教育と密接に関連するインターネット利用、即ちコンピュータとネットワークの基礎知識の修得を目指すべきであると思います。インターネット利用とは、電子メールと WWW を中心とした、顔を合わせない集団コミュニケーションと個人間の通信が現在の主流です。今後の技術進歩、コミュニケーション文化の発展の可能性を見越し、現在明らかになっている問題を認識させ、インターネットという場を有効に活用する能力の開発が必要とされていると思います。

以上のような現状認識に立ち、students の改革を提案します。

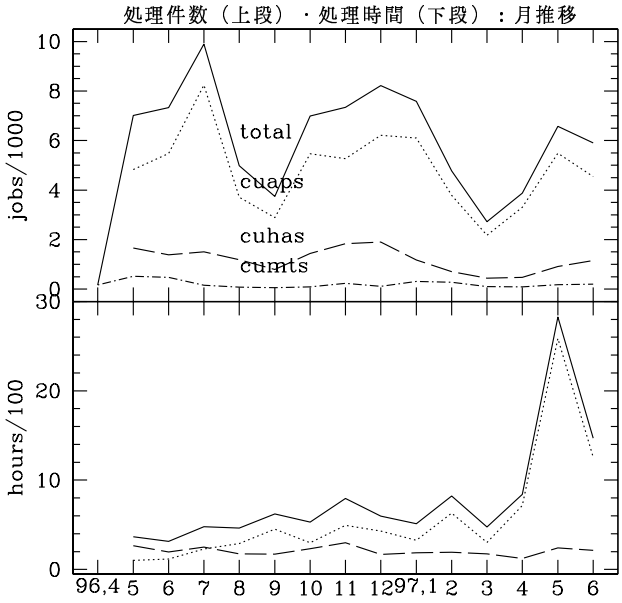
組織の整備　自習室は、授業の枠を越えてすべての学部の学生が集まりネットワーク的にも実際の会話によっても自分たちの知識を共有しようとするような環境に育っています。それと比較できるものとしては図書館が挙げられますが、組織としては students は図書館に比べて漠然としていて要領を得ません。基礎的でありかつ実学的な意味合いの強いこのカリキュラムに対しても学生から見

ると組織としての主張が弱いように思えます。そこで、まず教育カリキュラムの主任の存在を学生に対して明瞭にして欲しいと思います。それにより、カリキュラムの作成や利用環境の整備の上で学生の意見が反映されるようなオープンな場が設けられることを希望します。基本操作等は本来義務教育で済まされるべき内容です。従って、その講義方法も、他の科目とは異なり、組織で設定したいわゆる「学習指導要領」に基いて行なわれるような統一した方法が望まれます。このためには教育カリキュラムのマニュアル化と適切な教授法を講師に徹底して研修することが必要です。そういった組織的な運営が教育カリキュラムの主任の下で行なわれること及びそれが学生に明らかにされることが情報処理教育のさらなる活性化のポイントになると考えます。また、大学での利用に即したソフトウェアの開発及び日本語化センター、ドキュメンテーションを進める部署などを整備すべきだと思います。

実践的カリキュラム構成　カリキュラムが、コンピュータの歴史から構造、基本操作、エディタ、メール、WWW ブラウザ、web ページ作成へと進むのはいいのですが、ネットワーク上でのコミュニティ建設に必須のメーリングリストやニュースグループへの言及と実習を組み入れます。これらのネットワーキング関連以外の限定的、専門的なアプリケーションの修得は、僕の経験では専門科目にまかせればいいのです。他の普遍科目や学部開放科目の授業との連携も重要です。「情報処理」技術を基礎に置いた社会学分野のワークショップ、セミナー等が考えられます。本講義と平行して web 上での各学生の調査結果の発表、ディスカッションなど、実践的であり、社会との接点を確保し、授業の活性化につながるでしょう。語学教育、文化論など、多くの普遍教育に students は連携可能であり、他大学、国外の大学とのコミュニケーションの導入が直接的な効果と授業後の発展に寄与すると思います。

システムの更新　来るべき個人用ネット端末の実質的普及に遅れをとらないよう、更新を検討する必要があると思います。ノート PC の一人一台方式等を観察し、自由に接続可能でかつ、端末を所有していない学生をフォローできる、柔軟なシステムが必要と考えます。ノート PC のようなシステムを支給もしくは希望者購入として、市販の物の大学システムに合わせたカスタマイズと、その大量発注等。総合校舎の LAN の、授業での活用と students との連携。マルチメディアと呼ばれる装備も今後日常的に使われることになりますが、表現技術の研究という視点で students にも導入が必要だと思います。

長くなりましたが、次世代の students システムは予算とパフォーマンスの確保のみに気を取られず、人的資源の整備、及び現在拡大しているインターネットによるコミュニティと大学の位置関係、その将来像に十分注目した導入を目指して欲しいと思います。



［予定］

以下の日時はセンター内利用ができません。

7/22	定期点検日（９時～１３時）
7/31	月末処理日（全日）
8/18	定期点検日（９時～１３時）
8/29	月末処理日（全日）

［広報編集部門］

千葉大学総合情報処理センター
〒２６３千葉市稲毛区弥生町１－３３
ＴＥＬ　０４３－２９０－３５３６
ＦＡＸ　０４３－２９０－３５４４
E-mail editor@yuri.ipc.chiba-u.ac.jp